

東洋大学 完成報告書  
(福祉社会デザイン研究科)

## 1. 研究科の教育目標

福祉社会デザイン研究科は、社会福祉学専攻（博士前期・後期）、福祉社会システム専攻（修士）、ヒューマンデザイン専攻（博士前期・後期）、人間環境デザイン専攻（博士前期・後期、2009年4月設置）の4専攻からなり、各専攻の人材養成に関する目的及び教育研究上の目的を、「東洋大学大学院研究科委員会規程」の別表に、以下のとおり定めている。

### （1）社会福祉学専攻

社会福祉学の原理・歴史、社会福祉の法制・政策の立案や実施、ソーシャルワークの基礎理論等を踏まえた社会福祉学の体系的・総合的な研究を基礎とし、現代社会が要請する諸課題に積極的に対応できる研究者・実務者の養成を行う。

（博士前期課程）

社会福祉のみならず他のディシプリンを学んだ人材、社会福祉の現場で専門職として指導的な役割を担っている人材に対して、社会福祉の視点、対象、方法、評価などに関わる一貫した教育を行い、研究・実践の両面で貢献できる人材を養成する。

（博士後期課程）

社会福祉の体系的な理論と方法を基礎とし、価値、制度、政策、運営、実践の諸分野における高度な研究を遂行できる人材を育成するとともに、社会福祉の現場で専門職として指導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

### （2）福祉社会システム専攻

（修士課程）

新たな実践的社会学・社会福祉学の発展を志し、社会学と社会福祉学を中心とした学際的研究・教育を行い、福祉社会の形成に貢献する高度に専門的な実務者と研究者を養成する。

### （3）ヒューマンデザイン専攻

社会の要請に応え、子ども支援学、高齢者・障害者支援学及び健康デザイン学の各コースを置き、それぞれの専門領域に関する学問研究を基礎として、学際的な教育研究を行うことを目指す。

（博士前期課程）

保育、福祉及び健康増進の各分野において、高度で知的な素質のある専門従事者の養成を図るとともに、博士後期課程進学希望者に対しても研究能力の基礎トレーニングを行う。

（博士後期課程）

各分野において独立した研究者若しくは教育者として活躍できる能力を持つ人物を養成することを目的とする。

### （4）人間環境デザイン専攻

デザイン学、建築学、機械工学、情報工学、生活学などの諸分野を融合し、現代における生活環境問題を的確に捉え、人類が求める環境デザインのゴールづくりと

そのデザイン表現を具現化できる、総合的かつ専門性の高い実務者、研究者を養成する。

(博士前期課程)

建築・環境デザイン、道具・機器デザイン、製品・情報デザインの各分野で、問題点を総合的に捉え、解決案を提案・具現化できる専門的知識と能力を身につけた実践的人材を養成する。

(博士後期課程)

人間環境デザイン学の新たな理論と実践方法を構築し、社会の各分野で指導的役割を果たすことのできる、高度な専門技術者、研究者、教育者を養成する。

## 2．大学院における社会人受け入れに対応するための特別な配慮

福祉社会デザイン研究科では、全専攻において社会人入試を実施しており、社会人に対して門戸を大きく解放して、時代に則した専門性の高い職業人の育成に努めている。

授業形態についても、社会福祉学専攻およびヒューマンデザイン専攻では昼夜開講として大学院生が柔軟な研究が行えるように配慮しており、福祉社会システム専攻では平日夜間・土曜昼間の授業開講と、春・秋の2回の入学機会を設けることで多くの社会人を受け入れているなど、社会人の履修に対する配慮を行っている。また、修了要件を満たさずに在学年限を超えた大学院生については、許可の元で、当該年度の学費のうち授業料を半額とすることで、社会人学生の長期的な履修計画にも対応している。

さらに、各専攻において、合宿の開催や、社会人を念頭に入れた研究方法の指導強化、地域社会やNPO組織、研究機関や関連学会との協同等により、社会人に向けた実践的な教育を行っている。

## 3．入学時及び進級時における履修指導体制

入学時においては、事務ガイダンスとともに各専攻別にオリエンテーションを実施し、履修に関する指導を徹底すると同時に、指導教授が、大学院生の履修する科目の選択・決定に当たって指導を行っている。また、『大学院要覧』では、各専攻の授業科目や履修方法に加えて、入学時から修了時までの「履修の流れ」を図式化して掲載するなど、組織的な履修指導を行っている。

## 4．論文作成過程における必要に応じた適切な教育・研究指導体制

各専攻は主指導教授および副指導教授を学生の研究テーマに応じて決定し、大学院生は主指導教授の「研究指導」を毎年必ず履修することとしている。論文作成課程にあっては、主指導教授および副指導教授の指導により研究テーマ(題目)を事前に明確にし、研究テーマに関する幅広い知識を習得に努めさせるとともに、学会発表や学会誌、紀要等への論文投稿を積極的に行うことを指導している。

また、研究計画に沿って、それまでの研究成果をまとめた研究報告会を適宜開催し、主指導教授、副指導教授および講義担当教員等から指導を行っている。博士後期課程においては、公聴会で発表することを義務付け、主査、副査（学外者含む）からの最終的な指導を行う体制を整えている。

なお、研究における倫理体制については、「東洋大学研究活動規範」の遵守を求め、入学時ガイダンスや研究指導時に指導している。

## 5．ファカルティ・ディベロップメントに関わる各種の組織的な取り組み

F Dについては、全学として、「F D推進委員会」の下に「大学院部会」を設け、各研究科におけるF D活動を共有するとともに、2010年3月12日に「平成21年度大学院F D活動状況報告会・F D講演会」を実施するなど、大学院教育におけるF D活動の推進に取り組んでいる。

また、全学で新任教員F D研修会、一般教員F D研修会や授業改善事例シンポジウム等を実施する他、研究科内において合同ゼミ、グループ指導、中間報告会、合同発表会などにおける教員間の意見交換や、研究指導に関する独自のテキスト開発などに取り組んでいる。

## 6．授業および研究指導の方法および内容ならびに一年間の授業および研究指導の計画の明示、学生に対する成績評価基準の明示

東洋大学大学院学則において、  
第6条の2

本大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

と定めており、シラバスの作成依頼にあたって、各教員に各項目の具体的な記載を求め、授業および研究指導の方法および内容、授業および研究指導の計画、成績評価基準は具体的に記載されている。

## 7．学位授与基準や研究指導体制の明示化

博士後期課程について、「課程博士学位請求論文提出要件」ならびに「課程博士学位請求論文審査基準」を定め、各専攻の研究指導体制とともに、『大学院要覧』にて学生に明示した上、指導教授より個別に周知している。

福祉社会デザイン研究科 課程博士学位請求論文提出要件

(1) 過去5年以内に審査付き雑誌に単著もしくはファーストオーサーとして掲載された研究論文が1点以上存在すること（指導教員に確認すること）。

- (2) 過去5年以内に著書、設計、作品その他の研究成果物を通じて前項に準じる業績を有すると認められること。

#### 福祉社会デザイン研究科 課程博士学位請求論文審査基準

##### 社会福祉学専攻

1. 論文全体が明確な主題に基づいて構成され、記述されていること。
2. 関連する学会のこれまでの研究業績に付け加えることのできる新たな知見が含まれていること。
3. 論文作成上の手続きが明確であること
  - (1) 既存文献や資料の十分なレビューが行われており、その結果を踏まえた独自のテーマ設定が行われていること。
  - (2) 各章の展開と総合の関連が明確であること。
  - (3) 内容の説明を行うにあたって、十分な理論的・経験的裏づけを持っていること。
  - (4) 十分な調査データや資料の収集が行われ、手続きに従って適切な分析・検討が行われていること。
  - (5) 論文の主題に則した適切な考察・結論が示されていること。
4. その他学位論文にふさわしい内容となっていること。

##### ヒューマンデザイン・人間環境デザイン専攻

1. 研究の位置づけの適切性  
既往文献、資料等の十分なレビューがなされ、学位論文としての課題が明確であり、学術的価値が認められるものであること。
2. 題目及び全体構成  
論文題目が適切であること、本文の構成、表現、図表、文献等の引用が適切であること、論文全体のバランスがとれ、全体構成が完結していること。
3. 妥当性  
論旨、論拠が妥当であり、明確であること。
4. 独創性  
導入した概念、発見した事実が独創的であること。
5. 信頼性  
研究方法や分析方法、論拠とするデータが的確であり信頼性があること。
6. 新規性、先駆性  
使用した概念や方法、得られた結論の新規性、先駆性があること。
7. 有用性  
論文の結論が明確に示されており、当該専門分野の今後の展開において有用であること。
8. 以上の他、東洋大学が規定する「学校法人東洋大学行動規範」「東洋大学研究活動規範」に定める事項を遵守していること。

以 上